

## ▶▶▶ マッチングアプリケーションシステムの構築

## 「学生関係人口」の創出を目指して

## ▶ プロジェクトメンバー

- 満田 成紀（情報戦略室／システム工学部）  
 西村 竜一（データ・インテリジェンス教育研究部門／システム工学部）  
 岸上 光克（食農総合研究教育センター）

○はプロジェクト代表

## ▶ 共創相手

- 和歌山県庁（企画部・地域  
 振興局・移住定住推進課）

## プロジェクトの背景と目的

「わかやま型果樹産地労働力確保支援システム」の具体的な手法の一つとして、和歌山県と連携し、担い手が不足している地域と学生を繋ぐマッチングアプリケーションシステムを製作し、学生が登録された「仕事」を通じて地域と関りを深めることにより、関係人口の創出を図る。ここでいう「仕事」とは、学生が地域の魅力を知ることができ、継続してその地域に訪れたいと思うような“しごと”であり、労働力の確保を目的とした仕事は対象としない。

## プロジェクトの活動内容

アプリの実装に向けて、農作業体験やワーキングホリデーを体験した学生から意見聴取し、複数回アプリを改訂し、現在に至っている。

アプリの概要を説明すると以下の通りである。

県内の各種受入先が提供する受入プログラムの中から、学生が興味のあるものを選んで参加を申し込むことができる。受入プログラム管理機能として、受入先が登録申込をしたプログラムを県担当者が確認し、承認されたものが登録される。学生は登録されたプログラムをエリア・テーマ等で検索し、検討中のものを登録管理することができる。

コミュニケーション支援機能として、それぞれのプログラムに対する学生からの質問が受入先に送られ、受

入先の回答が質問をした学生に送られる。質問や回答のやり取りの後、学生が参加申込をし、受入先がそれを承認することでマッチングが成立する。

マッチング促進機能として、県担当者が登録したお知らせが、アプリ通知やメールで学生にプッシュされる。学生の会員管理は、学生自身が会員登録作業を行うことでアカウントが作成され、捜査履歴等が管理される。

受入先管理機能では、受入先からの登録申込を県担当者が承認した後、受入先管理者によってアカウントの追加が行われる。

アプリケーション全体の管理者機能として、県担当者は学生・受入先アカウントの管理や受入プログラムの管理ができる。

## プロジェクトの成果

現在、和歌山県企画部地域振興局移住定住推進課のホームページから運用が(<https://www.shigoto-ryokou.com/wakayama-crew/>) 開始されているが、必要に応じて、改修を行うこととしている。



和歌山県企画部地域振興局  
 移住定住推進課のホームページで運用

プロジェクトに関するお問い合わせ  
 食農総合研究教育センター

E-mail : syokuno@ml.wakayama-u.ac.jp  
 URL : <https://www.wakayama-u.ac.jp/food-agri/>

